

<令和5年1月定例記者会見>

1 開催日時

令和5年1月12日（木）午後1時30分から午後1時50分まで

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、読売新聞社、盛岡タイムス社、岩手日報社、河北新報社

4 発表事項

(1) 「第16回滝沢市郷土芸能まつり」の開催について（教育委員会事務局文化振興課）

1月29日（日）に「第16回滝沢市郷土芸能まつり」をビッグルーフ滝沢で開催いたします。このまつりでは、滝沢市の郷土芸能団体が集まり、それぞれが伝承する踊りをみなさまの前で披露いたします。今年のまつりのテーマは、田植踊りにスポットを当てた「滝沢市の四季を舞う」となっています。招待団体は岩手町の「黒内田植踊り」、また、滝沢市出身の民謡歌手「藤岡祐衣」さんがゲスト出演します。そのほかにも駒踊りや神楽など郷土芸能が盛りだくさんです。皆様のご来場をお待ちしています。

(2) たきざわエール便の実施について（経済産業部観光物産課）

新型コロナウイルス感染症がいまだ猛威を振るう中、帰省やアルバイトに制限を受けるなど、進学先で頑張っている皆さんを応援するため、滝沢市の地域産品を詰め合わせた「たきざわエール便」を無償で送付しております。これにより、学生の皆さんの支援のほか、滝沢市への愛着形成や、地域産品の消費拡大、認知度向上、さらには事業者の皆さんの経済的な支援になることを期待しています。送付を希望する方は、ビッグルーフ滝沢のHP又は窓口でお申し込みください。先着200セット限定となりますので、お早めにお申し込みいただきますようお願いいたします。皆様のご応募をお待ちしています。

(3) 第20回 IAT ふるさと CM 大賞における大賞受賞について（企画総務部企画政策課）

（株）岩手朝日テレビが主催する第20回 IAT ふるさと CM 大賞で、滝沢市の作品『循環で守る滝沢市』が最高賞の「大賞」を受賞しました。作品は、昨年6月にHPとSNSで募集し手を挙げてくれた4名の学生と、（有）哲学堂の渡辺専務取締役、市職員で制作チームを結成し、映像を継ぎ合わせしない、スマートフォンの一発撮りで撮影したものです。内容としては、チャグチャグ馬コが行進馬の馬フン堆肥で育てたスイカを「チャグチャグスイカ」と銘打ち、その売り上げの一部を行進馬のエサ代に還元し「循環」させる取り組みに焦点を当てたものとなっています。

SDGs など持続可能な社会の実現が求められる中、滝沢における「循環」の取り組みに着目し、ボディペイントによる表現や手袋などの小道具を使ったカラフルで手作り感満載の作品となっています。作品は、メイキング映像と併せ、市公式 YouTube チャンネル「滝沢市役所ちゃんねる」で公開していますので、ぜひご覧ください。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：たきざわエール便について、現時点でどのくらいの申し込みになっていますか。

市長：現在23件です。認知度的に浸透していないところがあるので、ぜひお申し込みをいただければと思います。

記者：23 件のうち、どの年から多いなどの特徴はありますか。

観光物産課長：まだ集計しておりませんので、そこまでの詳細は把握しておりません。

記者：中身としてどういったものが何点入っているか教えてください。

観光物産課長：滝沢のお米 1kg、焼き菓子、ナナコーンというとうもろこし、小岩井のビーフカレーとクリームチーズカレー、小岩井のミルクキャラメル、小さくパウチになっている滝沢りんご 100%ゼリー、滝沢スイカスパークリング、そのほか時期によって干し芋とポップコーンが入れ替わりながら入ります。滝沢市関連のファイルやメッセージカードも同封します。中身については、若干変更になる場合もありますが、現在見本として予定しているものがこれらとなり、おおむね 4,000 円相当となっています。

記者：全部で何点かという数量については、時期によって変わるということですか。

観光物産課長：おおむね 10 点前後で揃えていますが、在庫状況に応じて変わってくるということはご了承いただきたいと思います。

記者：申し込みの締め切り期限はありますか。

観光物産課長：年度内での申し込み受け付けとなっていますが、3 月中旬に申し込み状況を見て終了となる場合もあります。

記者：エール便のような取組は、今回で何回目ですか。

経済産業部長：昨年であれば、新成人の方にりんごを配布したりしていますが、エール便という形は初めてです。学生支援という点であれば、現金の給付や学生アルバイトの募集なども実施しています。

記者：予算的にはいくらくらいの事業ですか。

観光物産課長：約 130 万円です。

記者：23 件の申し込みということですが、いつ時点ですか。

観光物産課長：昨日（令和 5 年 1 月 11 日）時点です。

記者：郷土芸能まつりについて、盛岡市の永井の大念仏剣舞や北上市の鬼剣舞などが風流踊としてユネスコ無形文化遺産に登録され、伝統芸能の価値が改めて注目されていますが、イベントに合わせて、郷土芸能や地域の文化をどのように進めていきたいですか。

市長：篠木神楽は、県の指定無形民俗文化財で最初に指定を受けた神楽で、岩手山に起因する山岳信仰の神楽です。市としても誇りに感じていますが、コロナ禍によって放課後児童クラブなどでの子どもたちへの指導などの集まる機会も少なくなってきました。そして伝統芸能に対する興味も薄れてきたところですが、ここで今一度伝統芸能にスポットを当てて、滝沢市が持っている文化、大沢の田植え踊りも感動する踊りですので、色々な意味で市民に楽しんでいただきたいと思いますし、他市町村の方々にも多く来ていただいて鑑賞していただければいいと思っていました。併せて、各団体において、コロナ禍で発表する機会も失われてきましたので、発表の場を少しでも作ってあげたいという思いもあります。今まで頑張ってきた子どもたちの姿とその応援も含めて、ご来場いただければいいと思っています。

6 その他記者からの当日質問

記者：先月の会見や議会でも話題となっていました。盛岡赤十字病院の移転について、公約として掲げて市長に当選されて、その後市議会や県議会でも話題になっています。その後、色々な関係者とお会いし、時間も経った中で、今後の進め方や方針について新

たに考えたことはありますか。

市長：まず盛岡赤十字病院にお伺いしましたし、そしてその後、県の医師会、県庁、盛岡市長、そういったところにはこれまでの説明をさせていただきました。この後は、東京の本部に行って説明をしたいと思います。地元の岩手西北医師会にもお話をしていますし、関係する様々な団体の方々に説明をしています。その中で滝沢市が持っているポテンシャル、市民の期待度、私も県議を務めてまいりましたので岩手県にとって必要と私が考えていること、そういったところも含めて説明をしながら、少しでも実現に向けて着実に歩みを進めていきたいと思っています。

記者：様々な関係者に会って説明されたということですが、この説明というのは、滝沢市に誘致が必要な理由のことを説明されたということですか。

市長：滝沢市に来てもらいたいということと、今、日赤が抱えている課題にすぐ対応できること、さらに滝沢市が持っている特徴など、プラスの面がたくさんあるので、それらを説明してきたところですよ。

記者：1月に入って広報紙での市長の挨拶の中で、医療の充実を掲げつつも病院の誘致について明記されておらず、少しトーンダウンしているのではないかという意見も聞かれます。

市長：トーンアップしており、ダウンすることはないと思います。この件に関しては簡単に結果が出るものではないですし、土地利用や道路など様々な関係する課題があります。それを少しでも進めるためには、この目的を達成する意義、そして思いをしっかりと説明していき、その上でご判断いただくことと思います。

記者：今年の抱負をお聞きしたく、市政に対する自身の所感や、公約に対しこの一年でどういったことに着手し示していきたいという抱負があれば教えてください。

市長：市長の椅子に座って2か月経っておらず、まだ馴染んでいない気がしています。日々の業務、市長の職に慣れることに精一杯なところもありますが、正月休みで何日か休み、その中で新たにやりたいこと、進めなければならないことが自分の中でより明確になってきました。そして市長になって短い間ですが、色々なご意見を頂いたこともあって、それらを自分の中で少しずつかみ砕きながら、より自分の市政において必要と思うところ、どのように進めるかを再確認したところです。公約に掲げてきたことは今後も実践してまいります。短い間に色々な意見を頂いたことによって、自分の中で公約を実行する理由と厚みが増しました。あとは、直近で考えていることは、市役所前の中心拠点周辺の開発をしっかりと進めなければならないと思っています。時機を見てしっかりと判断しながら、着実な歩みにつなげていけたらと考えているところです。今、最も心配していることは、経済のことです。農業や商工業、サービス業もそうですが、今回のコロナ禍で物価高騰、燃油高騰など様々な事情を抱えている方々が多いので、しっかりと寄り添いながら、我々がしなければならないことをしっかりとやっていきたいと思っています。その中で、今回のエール便もそうですが、子どもから中高年、働く若い世代、親の世代、高齢者、色々な世代に対して細やかに対応していけたらと思っています。地域住民の方々、自治会をはじめ関係する団体の方々の協力を得ながら、一緒になってそれぞれがつながりを感じる、笑顔があふれる、やさしさに包まれた滝沢市にしていけたらと考えています。

